

令和6年度 群馬県中学校体育連盟テニス部大会出場規定

(令和6年4月1日施行)

群馬県中学校体育連盟テニス部

1. 選手の服装

(1) ウェア

- ① 清潔でプレーにふさわしいテニスウェアを着用し、派手にならないことを心がけること。
(次ページ資料参照)
- ② 男子のシャツは、半袖を着用、女子はノースリーブの着用を認める。ただし、タンクトップやキャミソールタイプの着用は認めない。(次ページ資料参照)
- ③ 女子のワンピースは、襟、袖の無い物の着用を認める。ただし、背中が大きく開いた物は認めない。(次ページ資料参照)
- ④ 上下テニスウェアの下に身体に密着するコンプレッションウェアの着用を認める。
(長さに制限は無し)
- ⑤ 学校名以外のコマーシャルロゴは認めない。(用具メーカー以外の企業名やクラブ名などは不可。)
- ⑥ ウェア等は、改変を認めない。(裏返したり、一部を切ったり、粘着テープを貼ったもの等は着用不可。)
- ⑦ 製造者ロゴは、下表の範囲と個数で認める。

	男子	女子
シャツ	両方の袖それぞれに 39 cm ² 以内の製造業者ロゴ 2つ	両方の袖それぞれに 26 cm ² 以内の製造業者ロゴ 1つ (文字可)
	文字のない製造業者ロゴは 77.5 cm ² 以内で1つでも複数繰り返しでも袖または脇の縫い目のどちらにつけてもよい	
	前身頃または襟に 39 cm ² 以内の製造業者ロゴ 2つ 前身頃と襟に1つのときは、後ろ身頃に 26 cm ² 以内の製造業者ロゴ 1つ可 (文字可)	前後の身頃と襟に 13 cm ² 以内の製造業者ロゴ 2つまたは 26 cm ² 以内の製造業者ロゴ 1つ (文字可)
ショーツ スコート パンツ	13 cm ² 以内の製造業者ロゴを前後どこでも 2つ または 26 cm ² 以内の製造業者ロゴを前1つと後ろ1つ (文字可)	
コンプレッション ショーツ スリーブ	13 cm ² 以内の製造業者ロゴ 2つ、または 26 cm ² 以内 1つ	13 cm ² 以内の製造業者ロゴ 1つ
ワンピース		ウエストから上部はシャツ、下部はスコート
ソックス	制限なし	製造業者ロゴ 13 cm ² 以内いくつでも (文字可)
ステンシルマーク	入れたものは使用できない	
帽子 ヘッドバンド	26 cm ² 以内の製造業者ロゴ 1つ	19.5 cm ² 以内の製造業者ロゴを前に 1つ
リストバンド	26 cm ² 以内の製造業者ロゴ 1つ	19.5 cm ² 以内の製造業者ロゴを 1つ
サングラス	サングラスは不可、ただし色つきレンズはレンズ越しに目が見えると判断されたときのみ可 身体的にレンズ越しに目が見えないものを着用しなければならない場合はレフェリーの許可が必要	
学校名	片袖に 19.5 cm ² 以内で 1つ表示可、他の場所は不可	
個人名	表示したものは着用不可 (ガムテープ等でかくすことはできない)	

(2) 靴

必ずテニスシューズを着用すること。

(3) 用具

医療製品（テーピングやサポーター等）はレフェリーの許可を得て使用すること。
事前申告が望ましい。

(4) その他

- ① 試合に不必要な装飾品などは付けてはならない。
- ② 選手の腕等へのペイント・文字の書き込みは禁止する。
- ③ その他の適否はレフェリーが最終判断をする。

2. 監督・コーチの服装等

開・閉会式及びベンチ入り（団体戦のみ）する場合は、スポーツシャツを着用し、必ずテニスシューズを着用すること。

3. 選手・監督の心得

- (1) 団体戦では、監督・コーチまたは選手1名が指定されたベンチに着席する。ただし、監督またはコーチ、選手の椅子の持ち込みは禁止とする。
- (2) 団体戦で2面以上の進行となった場合、各コートに監督または選手が1名までベンチに入ることができる。ただし、選手のベンチ入りは1マッチ1回のみとし、ベンチから離れた場合、再びベンチに入ることは認めない。
- (3) 団体戦で部活動指導員がコーチとしてベンチに入るには、大会要項に記載された資格を有し、校長に承認され日頃からその学校の指導をしていることが条件となる。参加申込の際、参加申込書に記入し競技委員長に提出し、承認を受けていること。ただし、大会中に教育的配慮に欠ける行為があった場合は退場していただくことがある。
- (4) 団体戦での選手へのコーチングは、チェンジサイズ時のみ認めるが、前ゲーム終了から90秒以内に次のプレーに入るものとする。
- (5) 選手は指定の位置で待機し、OP（オーダーオブプレイ）や放送に注意し試合進行に支障がないようにする。試合後はすぐにベンチを空けること。
- (6) プレーヤーの相手へ威圧・挑発、相手を傷つけるような態度は禁止する。
- (7) 選手は、競技中（チェンジサイズ時を含む）、他のコートに移動してはならない。
- (8) 審判の判定には、異議の申し立てはできない。（あいまいな判定を確認することはできる）
- (9) 大会に出場する選手は、きちんとスコアシートとセルフジャッジができるようにしておくこと。
- (10) 自分で判断がつかないときは、相手のポイントとする。
- (11) 選手間で解決できないときは、ロービングアンパイヤを呼ぶことができる。
- (12) 試合は、相手がいなくては成り立たない。相手への敬意を忘れずにプレーすること。

4. 応援

- (1) 応援はマナー良く、学校ごとにまとまって行うこと。ただし、サービス体制に入ったら応援をやめる。また、相手選手を挑発や中傷するような言動は禁止する。
- (2) コート外からコーチングと受け取られるような声かけはしない。また、ベンチ入りしている監督やコーチもチェンジサイズ時以外は、コーチングと受け取られるような声かけはしない。

5. その他

- (1) 選手変更がある場合には、大会当日受付で職員付きの参加申込書の提出時にその旨を伝えること。個人戦の場合は、ダブルスの場合は1名まで変更を認めるが、2名とも出場不可能となった場合は棄権とする。その際の、変更選手も予選大会で出場資格を得ている選手とする。ダブルスでは、1校から2ペア以上の参加申込があるとき、2ペアの1名ずつ出場不可能になった場合には、ペアを統合して1ペアを作り、残りの1ペアを棄権とする。統合されたペアの場合には、予選大会の高い順位で参加することとする。
- (2) 審判におけるクレーム等について
 - ① 選手および監督が、抗議をしてきても一切声を出して答える必要はない。(確認については答える。)
 - ② 事実問題(アウトかインかネットに触れたか触れないか等々)についての最終判定者は主審であり、レフェリーではない。主審は事実問題をしっかりとジャッジする。
※選手・監督には事実問題の紛争に関して、「レフェリーを呼べ」という権利はない。
 - ③ コート上で起こったルール法的解釈の問題に関しては、はじめに主審がその判定を下し、もしプレーヤーがその判定に対してアピールをしてきた場合は、コートレフェリーにその最終裁定を求める。
 - ④ 主審は抗議に対して「・・・と思う。」ではなく、毅然とした態度で「・・・です!」と明確な表現で答える。
- (3) メディカルタイムアウト(MTO) → コートレフェリー・顧問の先生方の指示を仰ぐ
 - ① 痙攣の場合は、メディカルタイムアウトを取ることはできない。
 - ② 明らかな事故による怪我については、3分間の治療時間が取れる。怪我をした選手については、怪我発生直後に治療するかどうかを判断しなければならない。
※ 発生直後とは、「怪我をした瞬間から次のエンドの交代終了までの間」とする。
※ 治療後、エンドの交代時に再治療を受けることができる。その場合は90秒である。
- (4) 中断の場合 → 中断は、天候等から大会本部の判断にて決定する。

トスが終わり、サービス・レシーブ・エンド等が決まりウォームアップが始まったが、試合が開始されるまでに雨が降ってきてプレーが中断し、再開されたとき、先ほどのトスの勝者が「選択をやり直したい」と申し出たら、受け入れなければならない。

例：トスの勝者は「サーブをとったが、レシーブをとりたい」と要求できる。
- (5) ポイントが分からなくなってしまった場合には、両者が確実に確認できるところまで戻って再開すること
- (6) レシーブポジションとサーブ順番を間違えた場合のそこまでのポイントは有効であり、気付いたところからは正しい順番で行うこと。
- (7) 会場(サンスポ)のコートに沿った1列は大会関係者の駐車場のため、出場選手や応援者の駐車は禁止。
- (8) 会場を適切に使用し、美化に努めるとともに、ゴミはすべて持ち帰ることとする。
- (9) 大会は、要項・出場規定・競技場の注意・諸注意に基づき運営されるので、大会関係者(選手・監督・応援者・保護者)はそれらを熟読の上、大会に臨むこと。それらに違反することが発生した場合、学校または選手に警告を与える。

令和5年4月1日 施行
令和6年3月19日改訂